

SEI WORLD

住友電工グループニュースレター Vol.459

12

2015





SEI WORLD 12 2015

住友電工グループニュースレター Vol.459

Contents



トップメッセージ

強みを伸ばす、繰り返し言い続ける



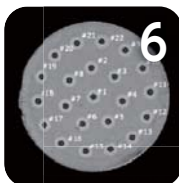
特集

2016 International CES



製品技術

小型光ファイバ融着接続機



Latest Information

光ファイバの最大伝送容量の
世界記録を更新、
2.15ペタビット毎秒を達成



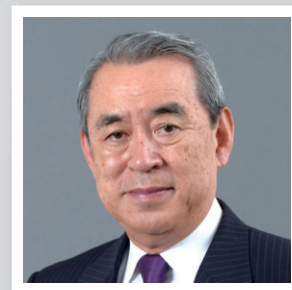
今月のグループ会社紹介

アラブ首長国連邦中東事務所(ドバイ)
Sumitomo Electric Industries, Ltd. Middle East Office

TOP MESSAGE

強みを伸ばす、繰り返し言い続ける

住友電気工業株式会社 社長 松本 正義



内外で気が滅入るようなニュースが続く中で、ラグビー・ワールドカップでの日本チームの活躍は、先のノーベル賞受賞の報に続いて、快哉を叫びたいくなる出来事でした。

人気の点ではサッカーなどの後塵を拝していた日本のラグビーですが、初戦で優勝候補の一角であった南アフリカを劇的な逆転で破り、その後も強豪国相手に2勝するに至って、一気に国中の注目を集めるようになりました。これも「結果を出したからこそ」でありましょう。

「体格もパワーも劣る日本チームが、なぜ強豪国に伍して戦うことができたのか？」

この問いに対し、ヘッドコーチを務めたエディー・ジョーンズ氏は、チームの「強み」を伸ばしたことを挙げていました。曰く、「強豪チームの真似をしても勝てない。自分の強みを伸ばすこと。弱みをなくそうとするより、強みを磨く方が楽しいものだ。そう

やって自信がつけば、弱点も徐々に克服できるようになる。信念と勇気を持って、人と違う努力を続けることが大切なのだ」と。

ビジネスを進める中で、自分たちの弱みが見えてくると、私たちはついつい弱気になってしまいます。ジョーンズ氏はこうも言います。「以前の日本チームは、国際試合があると試合前から心のどこかで負けていた。だから、ヘッドコーチとして最初に取り組んだのは、マインドセットを変えることだった。強みを生かせば勝てる、と。難しいことだが、リーダーが同じことを繰り返し言い続けられれば、人はそれを信じる。」

組織の強みを伸ばすこと。本質をつかんだメッセージを発し続けること。リーダーの力量が問われます。

2016 International

当社グループは、2015年1月にInternational CES (以下、CES) に初出展しました。今回、2回目の出展となるCES 2016の当社ブースについてご紹介します。

CESとは?

CESは、毎年1月にアメリカ・ラスベガスで開催される、家電分野で最大の見本市です。40年以上にわたり開催され、出展企業から最新の情報や次世代の革新技术が発表される場ともなっています。今年開催されたCES 2015には、約150カ国から17万人以上が来場しました。展示会場には、3,600以上のブースが出展され、IoT*やウェアラブル関連製品など、数多くの新製品が発表されました。

当社グループは、Smart Homeのカテゴリーに出展し、モビリティ、エネルギー、コミュニケーションの領域に強みを持つ技術力とそれらの融合領域を通じて、現在そして将来の環境・社会づくりに貢献する製品を紹介します。

*IoT: Internet of Things コンピューターや携帯電話だけでなく、身の回りのさまざまな機器がインターネットに繋がる仕組みです。家電などの機器が相互に通信することで、遠隔での認識や計測、制御などが可能になります。

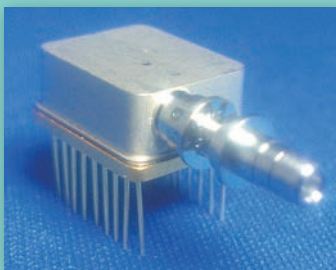
製品紹介

当社グループは“We connect everything”
～家と繋がり、地域と繋がり、社会へ繋げる～をコンセプトに、
社会・環境を支える製品群を紹介いたします。

1 エレクトロニクス

フルカラーレーザーモジュール

当社は赤・緑・青の3原色の半導体レーザーを搭載した世界最小サイズ(W13×D11×H6mm)のフルカラーレーザーモジュールを開発いたしました。このモジュールは当社がこれまで培ってきた材料・実装技術を基



盤に開発した新製品です。安定した光・電気特性を実現しているため、イルミネーション、小型プロジェクタ、各種センサーとさまざまな機器に使用できます。会場ではフルカラーレーザーモジュールを組み込んだイルミネーションのデモをご覧いただけます。

2 情報通信

OSGi対応 サービスゲートウェイ

サービスゲートウェイとは、OSGi (Open Service Gateway Initiative)の技術を使用して、宅内ネットワークと各種クラウドサービスを結ぶ機器です。家庭やオフィス、店舗などにおいて、電力需給管理の「見える化」やセキュリティ、ヘルスケアなどのさまざまなサービスの管理を1台で実現させることができます。会場では「サービスゲートウェイ」を展示し、実際に各種センサーや家電機器と接続したデモをご覧いただけます。

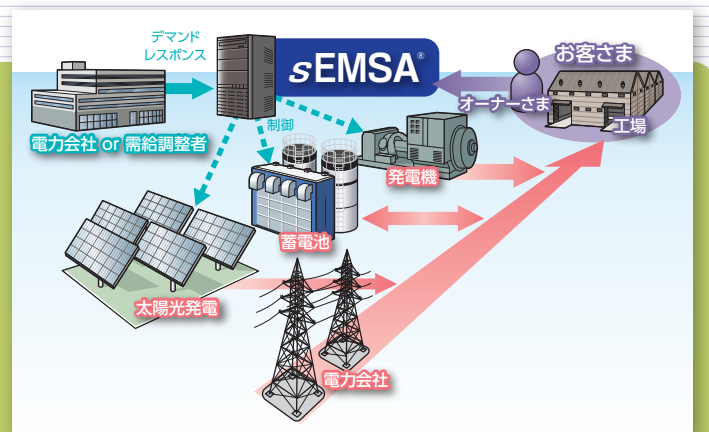


3 環境エネルギー

sEMSA®

当社の出展カテゴリーとなっている「Smart Home」関連製品として、展示会場ではエネルギーインフラを支える当社グループの製品・技術をパネルで紹介いたします。

近年、省エネルギー社会実現に向けて、工場や企業などの電力の大規模需要家における再生可能エネルギーなどを使用した分散型の電力システムの活用がますます高まっています。会場にてパネルで紹介する製品の1つ、エネルギー・マネジメント・システム「sEMSA®」は、再生可能エネルギーを含むさまざまな分散電源の構成に対して、エネルギーを効率よく使い、環境負荷の軽減やコストを最小化する最適な電力運用を可能にします。



CES

当社ブースの見どころ紹介!

現地で、展示会の準備に携わっている当社グループ会社 Innovation Core SEI, Inc.の担当者より、当社ブースの見どころを紹介します。

“We connect everything”というコンセプトのもと、住友電工グループブースでは、製品がいかんして私たちの生活を支えているかを紹介するデモンストレーションを実施したり、来場者の方が実際に製品を手に取り、最先端の技術を体感していただけるような工夫を凝らしています。来場者の方々には、住友電工グループのさまざまな事業領域を融合した総合力を感じていただければと思います。CESへお越しの方は、ぜひ当社グループのブースへお立ち寄りください。



Chun Zhang



阿賀野 優子

当社の出展情報

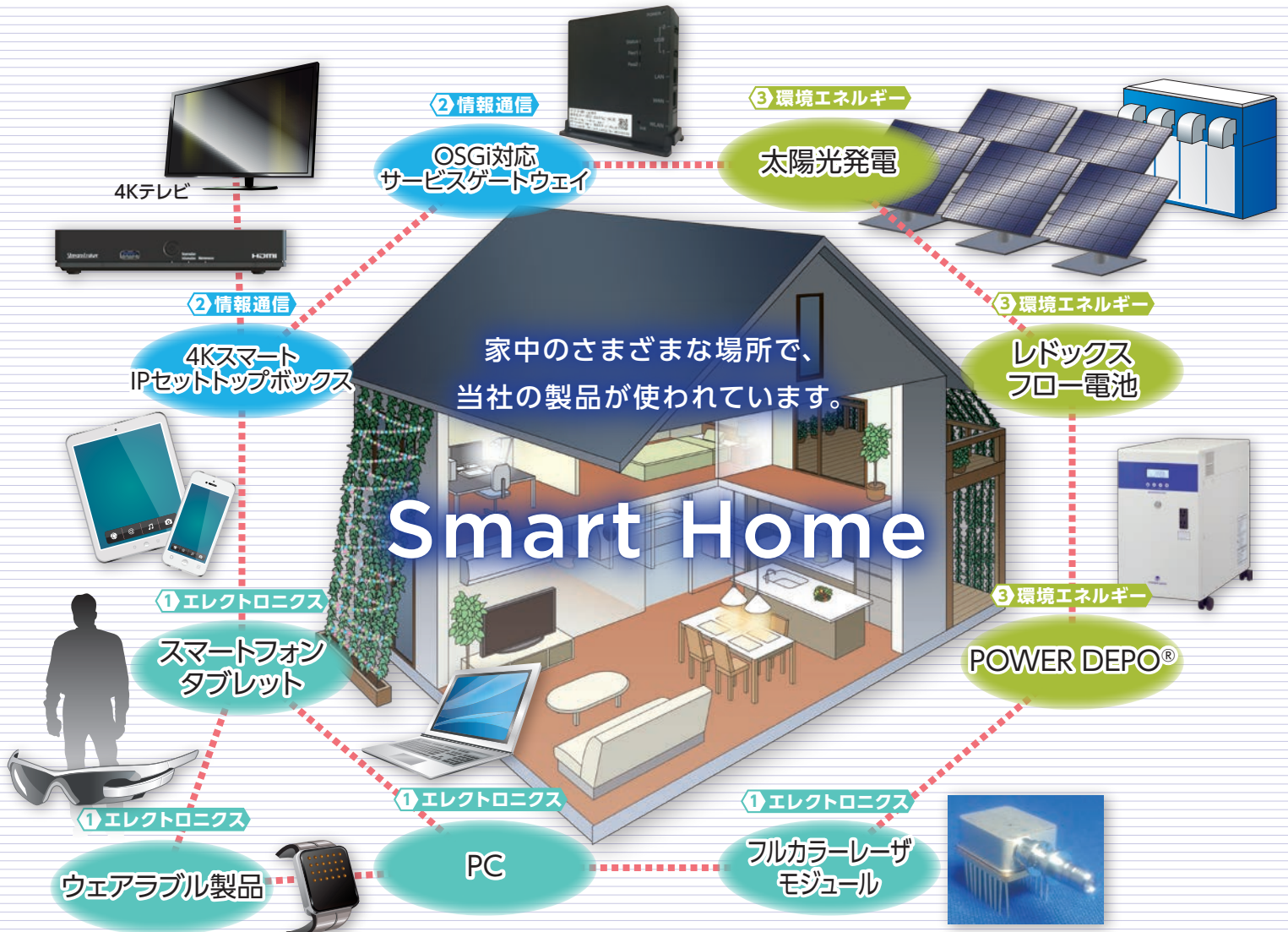
開催期間 2016年1月6日(水)～9日(土)

開催場所 米国ネバダ州 ラスベガス サンズ・エキスポ&コンベンションセンター

ブース番号 #71120 Tech Westゾーン Sands Expo, Level 2

カテゴリー Smart Home

CES公式日本語サイト <http://cesjapan.org/index.htm>



SEIさんと学ぶ

もっと知りたい あの製品技術!

今回は、光機器事業部が扱う、
光ブロードバンドサービスに
必要不可欠な製品をご紹介します。



今月の
注目製品

TYPE-201



TYPE-71C+

小型光ファイバ 融着接続機

製品データ

ウェブサイトURL

<http://www.optigate.jp/>

融着接続機って何?

日本では、世界に先駆けて家庭用のデータ通信サービスFTTH*1が普及し、インターネットやテレビ、電話など身近なところで、高速で大容量のデータ通信が可能な光ファイバケーブルが使用されています。

また、日本のみならず、世界各国で光ファイバネットワークの構築が急速に進んでおり、幹線系接続工事、FTTH接続工事など光ファイバ布設工事の現場や、光通信機器の組立工場で活躍するのが、融着接続機です。

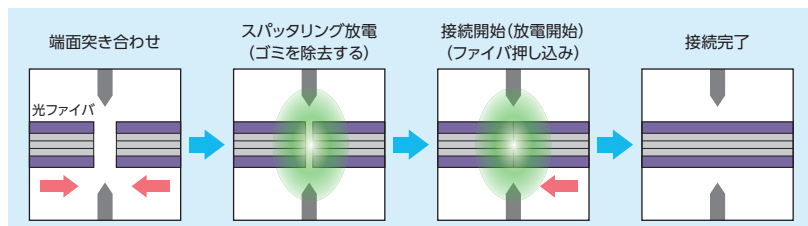
融着接続機とは、放電によって発生する約1,800℃の熱で、光ファイバを溶かしコアを一体化させて接続する装置です。

当社はこれまで小型融着接続機を国内外に販売し、好評をいただけてきました。

今年8月にブラジル・サンパウロでおこなわれた技能五輪国際大会*2でも、当社の融着機を用いた選手が金メダルを獲得するなど、多くの技術者にも活用いただいています。

*1 Fiber To The Home: 通信会社と個人宅を光ファイバで結び、電話・インターネット・テレビ配信などのサービスをおこなうこと。

*2 正式名称は国際技能競技大会 (World Skills Competition)。1950年にスペインとポルトガルの職業青年団の間で、各12名の選手が技能を競ったことから始まり、参加国・出場選手の増加から、若年技能労働者の国際的な祭典として認知されている。日本は1962年の第11回大会から出場しており、中でも、「情報ネットワーク施工競技部門」は、日本代表チームが5回連続で優勝している競技。



当社製品の特長は?

当社の融着接続機は、小型で軽量かつ、屋外での使用に適した防塵・防滴性能が特長です。

その中でも、TYPE-201シリーズは、片手で持って作業できる大きさ(幅110mm×奥行140mm×高さ76mm)で、重さも770gと従来機より半減し、世界最小・最軽量のコンパクトボディとなっています。限られた作業スペースで効率よく、また初心者でも容易に操作できるため、電柱間や住宅への光ケーブル配線工事などで活躍します。

TYPE-71C+は、新規で開発した高倍率顕微鏡を搭載し、画像処理の高精度化を実現しました。これにより、接続部での通信光の損失を非常に低く抑えることができます。また、光ファイバの種類を自動で識別し、最適な融着接続条件を設定する機能を搭載したことで、安定して接続することができます。さらに、従来機より半分の時間で、融着補強することが可能な製品となっています。

このように、当社ではお客様の目的に応じたさまざまな種類の融着接続機をご用意しております。

技術者に聞きました



SEIオプティフロンティア(株)
メカトロ製品部 機構設計グループ
佐藤 龍一郎

開発する上で難しかったことは何ですか?

従来の融着接続機の機能を維持・向上させつつも、どこまで小型化・軽量化できるか、部品一つ一つの形状や材質の見極めに苦労しました。

また外観形状も、作業の方が持ちやすく、扱いやすく、高所作業での安定性も考慮した形状を追求し、実際の作業の方々にヒアリングを重ねて決定しました。さまざまなご意見やご指摘を、製品にいかん反映して具体化していくかという点が難しかったです。

新機能であるタッチパネルの導入やヘルプ動画機能・リモート保守機能の搭載も、作業性や操作性を高める新たな試みとして従来以上に実機検証に時間をかける必要がありました。

お客さまからどのような反応ももらっていますか?

FTTH工事に最適な融着接続機として開発したTYPE-201シリーズは、ハシゴや電柱に登っての接続作業や、サービスを利用されるお客さまの宅内での接続作業が想定されるため、小型・軽量で「装置ではなく工具」のような融着接続機をめざしました。世界最小・最軽量を実現し、熟練作業でない方々をサポートする機能も搭載できたため、お客さまからは、誰にでもすぐに操作でき、小型軽量で扱いやすいといった評価をいただいています。

また、当社の融着接続機ラインナップの最上位機種TYPE-71C+は、高い信頼性が求められる光ファイバ通信網の幹線の工事に主に使用されるため、国内はもとより光ファイバの導入が急速に進む海外のお客さまにも大変ご好評をいただいています。

LATEST information

お知らせ

光通信研究所

光ファイバの最大伝送容量の世界記録を更新、2.15ペタビット毎秒を達成 ～高精度光コム光源の採用により、長距離化・大規模化への期待～

当社と国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)、RAM Photonics, LLC(RAM)は共同で、従来世界記録であった光ファイバ1本あたりの伝送容量を2倍以上に更新し、2.15ペタビット^{※1}毎秒の光信号の送受信実験に成功しました。

光ファイバ1本あたりの伝送容量を拡大する次世代技術として、新型光ファイバ^{※2}が世界的に研究されている中、今回、品質が均一で長距離伝送に好適な同種コア型のシングルモード22コアファイバと波長多重光を一括で生成可能な高精度光コム^{※3}光源を用いて、30km伝送の実証をおこないました。

光伝送システムでの利用が期待されている高精度光コム光源を採用した今回の実験により、将来の大規模デジタルコヒーレント^{※4}

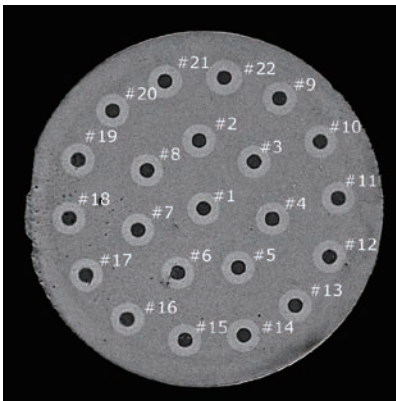
光ネットワーク実現の可能性が拓けます。なお、本論文は、スペイン、バレンシアで開催された光ファイバ通信関係最大の国際会議の1つである「第41回欧州光通信国際会議(ECOC2015、9月27日～10月1日)」で高い評価を得て、最優秀ホットピック論文として採択されました。

ポイント

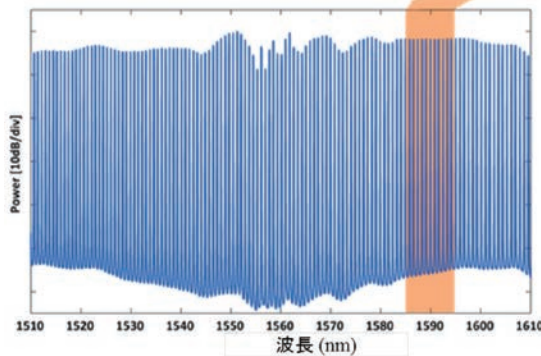
- 従来世界記録1ペタビット毎秒の約2倍である2.15ペタビット毎秒を達成
- 品質が均一で長距離伝送に好適な同種コア型のシングルモード22コアファイバを採用
- 将来の大規模デジタルコヒーレント光ネットワークに向け、高精度光コム光源を採用

本実験では、当社が「シングルモード22コアファイバ」を設計・製造しました。また、「高精度光コム光源」は、当社が独自開発した専用の高非線形ファイバを使用し、RAM社が設計・製造しました。

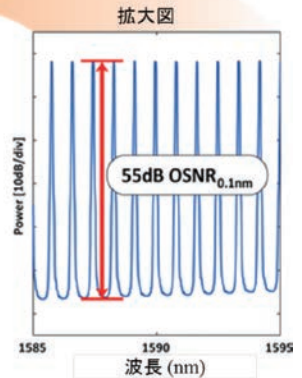
今後、マルチコアマルチモードファイバ伝送技術の実用化をめざして、通信事業者、メーカーとの取り組みを積極的に推進し、光通信のさらなる大容量化技術の研究開発に取り組んでいきます。



22コアシングルモードファイバ断面写真



高精度光コム光源が一括生成した光スペクトル



※1 ペタビット:1ペタ(P)ビットは1000兆ビット、1テラ(T)ビットは1兆ビット、1ギガ(G)ビットは10億ビット、1メガ(M)ビットは100万ビット。通常の実用光ファイバサービス(FTTH)は、最大でも毎秒2ギガビットほどの速度であり、1ペタビットはその50万倍に当たる。

※2 新型光ファイバ:

現在実用化されている シングルモードシングルコアファイバ	研究されているマルチコアファイバの例	
	異種コア	同種コア
新型光ファイバ	主な特徴	
異種コア (物理特性が違うコアを配置) マルチコアファイバ	コア間クロストークの低減が容易で、コア数を増やすことも可能である。コア毎の光の進行速度が異なるため、空間符号化や自己ホモダイン伝送には不適。シングルモードタイプ、マルチモードタイプが存在する。これまでの、36コアファイバが最高コア数である。	
同種コア (全コア物理特性が同じ) マルチコアファイバ	各コアの光が同じ速度で進行するので、空間符号化や自己ホモダイン伝送など高度な伝送方式に対応可能。コア間クロストーク低減に高度な技術が必要で、コア数を増やすことが難しい。シングルモードタイプ、マルチモードタイプおよび混在タイプが存在する。これまでの、19コアファイバが最高コア数であった。	

※3 光コム: 光周波数領域で櫛の歯状のスペクトルを持つ光源を指し、分光計測などに用いられるほか、波長多重光通信の光源としても有望視されている。

※4 デジタルコヒーレント: 光の位相を用いて周波数利用効率を向上させるコヒーレント伝送方式を実現するため、デジタル信号処理を活用した通信手法。

LATEST information

新製品情報

ハードメタル事業部

超硬合金切削用ナノ多結晶ダイヤモンド工具のラインアップを拡充

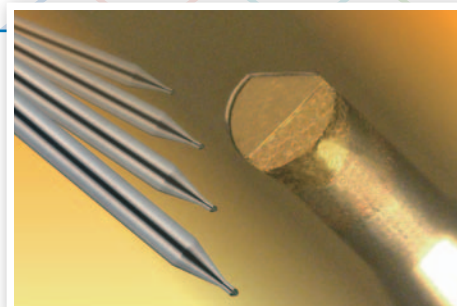
～工具のサイズ拡充と新シリーズ追加～

当社は、数十ナノサイズの微細なダイヤモンド粒子が強固に直接結合したナノ多結晶ダイヤモンド(NPD)をボールエンドミルの刃先に用いた切削工具を業界で初めて開発し、超硬合金の精密仕上工具NPDB型R0.3、R0.5、R1.0の3型番をすでに販売しています。

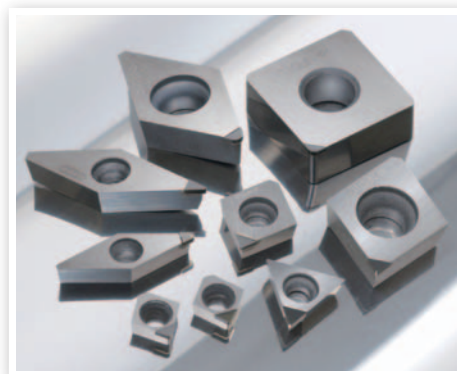
このたび、モールドフィニッシュマスター®[スミダイヤ®バインダレスボールエンドミル]の小径サイズR0.1、R0.2の拡充と新シリーズ標準仕上工具NPDBS型R0.1～1.0の5型番を追加しました。さらに、刃先交換インサートの新製品となる37型番もあわせて発売しました。

ラインアップ

ボールエンドミル NPDB型(精密仕上品)	5型番(拡充2型番)
ボールエンドミル NPDBS型(標準仕上品)	5型番(新発売)
刃先交換インサート	37型番(新発売)



スミダイヤ®バインダレス
ボールエンドミル



スミダイヤ®
バインダレス
インサート

新製品情報

住友電工情報システム(株)

文書管理・情報共有システムの最新版「楽々Document® Plus Ver.3.8」を発売

「楽々Document® Plus」は、企業内に分散して存在する文書やデータを登録・保存・管理し、必要な時に必要な情報を高度な検索ですぐに取り出すことのできる文書管理・情報共有システムです。

今回発売の「楽々Document® Plus Ver.3.8」では、改訂時期がき

た契約書の管理者に対して督促メールを定期的に送信したり、その改訂状況を一覧で表示するなど、契約書管理に便利な機能が追加されました。

新製品情報

住友電工情報システム(株)

Webワークフローシステムの最新版「楽々Workflow® II Ver.7.1」を発売

「楽々Workflow® II」は、企業内での申請・承認・決裁のワークフローを電子化し、業務の見える化を実現するパッケージソフトです。

今回発売のWebワークフローシステム「楽々Workflow® II Ver.7.1」は、行数を追加できる一覧入力形式を含む申請画面を簡単

に作成できるようになりました。また、一般利用者の操作記録に加え、管理者がおこなう設定作業の操作記録を残すようになり、企業の内部統制強化に貢献します。さらに、承認・決裁済みの申請を追加で通知・回覧できるようになり情報共有がしやすくなりました。

受賞

焼結製品事業部

ボルグワーナー・モールスシステムズ・ジャパン(株)の仕入先総会において、「VA/VE協力感謝賞」を受賞

当社は、10月9日に開催されたボルグワーナー・モールスシステムズ・ジャパン(株)仕入先総会において、「VA/VE協力感謝賞」を受賞しました。

ボルグワーナー・モールスシステムズ・ジャパン(株)の松居代表取締役社長から、当

社執行役員の森谷 守に、表彰盾および表彰状が授与されました。本受賞は積極的なVA/VE提案による価格協力が評価されたものです。今後もさらなる原価低減活動、生産性向上に努めていきます。



左:当社執行役員 森谷 守
右:ボルグワーナー・モールスシステムズ・ジャパン(株) 松居代表取締役社長

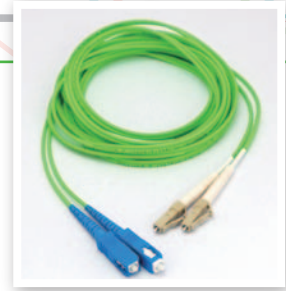
お知らせ

営業企画部

光コードをオンラインストアのAmazonで販売開始

当社は10月から、より多くのお客さまに当社製品をご購入いただけるよう、Amazonジャパン(株)(Amazon.co.jp)でコネクタ付光コードの販売を開始しました。

本ラインナップは構内LAN、データセンターのネットワーク機器間の接続や、FTTHなどにおける宅内受信装置の接続など、広く一般的に使用される光配線部材です。



GI(1G)2心メガネコードSC(PC研磨)/LC(PC研磨)コネクタ付 3m

お知らせ

住友電工システムソリューション(株)

フィリピンでの地デジ放送を利用した渋滞情報配信実証実験に参加



実車走行の様子(フィリピン共和国)

住友電工システムソリューション(株)は、総務省の「フィリピン共和国における地デジ日本方式によるデータ放送を用いた渋滞情報配信システムの導入可能性に関する調査(マニラ市)」で、本田技研工業(株)ほかとともに現地実証実験に参加しています。総務省は、地上デジタル放送日本方式を採用したフィリピン共和国で本調査をすることで、日本のICT*分野の国際競争力の強化をめざしています。

当社は、これまで国内外で培った渋滞情報の生成技術を活用し、マニラ市内で収集した車の位置情報をもとにした渋滞情報の生成を担当しています。本社会実験の結果をふまえ、フィリピン国内での商用化や新興国への展開を進め、渋滞情報の提供を通じた社会貢献をおこなっていきます。

* ICT (Information and Communication Technology) : 情報通信技術

展示会

住友電工システムソリューション(株)

「システムコントロールフェア(SCF)2015」に出展

12月2日(水)から4日(金)の3日間、東京ビッグサイトで「システムコントロールフェア(SCF)2015」が開催されます。本展示会は2年に1度、オートメーションと計測の先端技術が集う専門展です。住友電工システムソリューション(株)は、(株)パトライトの出展ブースに外部警報連携する「Sensor Core®」を共同展示します。M2Mソリューションと情報表示イノベーションのコラボで新たな気付きを与えます。

展示ブースへのご来場を心よりお待ちしております。

公式サイト: <http://scf.jp/ja/> 会期: 12月2日(水)~4日(金)
会場: 東京ビッグサイト ブース番号: 西展示場S1-03
出展製品: M2Mソリューション [Sensor Core®]



展示会

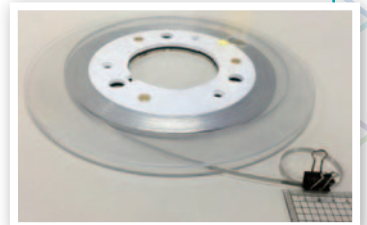
超電導製品開発部

低温工学・超電導学会の併設展に出展

12月2日(水)、3日(木)の2日間、姫路商工会議所で開催される低温工学・超電導学会の併設展に出展します。今回は、4月に第19回超伝導科学技術賞を受賞し、販売開始した高強度「DI-BSCCO® Type HT-NX」を中心に超電導応用製品を紹介いたします。

展示ブースへのご来場を心よりお待ちしております。

会期: 12月2日(水)、3日(木) 会場: 姫路商工会議所
出展製品: 超電導線材、超電導マグネット、超電導ケーブル



DI-BSCCO® Type HT-NX

スポーツ

人事部

第60回全日本実業団対抗駅伝競走大会(ニューイヤー駅伝)への出場が決定

11月15日(日)に、第58回関西実業団対抗駅伝競走大会が和歌山県田辺市龍神行政局前をスタート、龍神体育館をゴールとする7区間80.45kmでおこなわれました。当社チームは3区の竹澤 健介選手が区間賞を獲得するなどして、4位に入賞しました。

この結果により、来年1月1日に群馬県でおこなわれる第60回全日本実業団対抗駅伝競走大会(ニューイヤー駅伝)への出場が決定しました。皆さまの温かいご声援をよろしく願います。



今月の グループ 会社紹介

グローバルグループ vol.44

中東事務所(ドバイ)

Sumitomo Electric Industries, Ltd. Middle East Office

私が紹介します



中東事務所
星野 輝

中東の社会インフラシステム充実に貢献すべく市場調査・情報収集・販売支援に取り組んでいるドバイ・中東事務所からのレポートです。



会社概要



名称: Sumitomo Electric Industries, Ltd. Middle East Office
開設年月: 2008年7月
事業内容: 中東地域全般の市場調査・情報収集および住友電工グループ製品の販売支援など
代表者: 武藤 悟史

住友電工とのつながりは

中東事務所は、駐在員事務所として、2008年7月、ドバイ国際空港に隣接するフリーゾーン内に開設されました。中東市場における住友電工グループ唯一の営業支援拠点として、光通信、光機器、産業電線、新規事業関連製品(集光型太陽光発電装置、レドックスフロー電池、水処理膜)などの市場調査・情報収集・販売支援をおこなっています。

こんな仕事をしています

風土・文化・商習慣が違うアラブ・イスラム圏においても住友電工グループの発展に寄与すべく日々努力

アラブ・イスラムの考え方が人々の生活・ビジネスの根底に存在している中東では、オイルマネーを原資として高い経済成長が続き、インフラ整備や都市の近代化が急ピッチで進んでいます。当事務所は、日本人駐在員に加え、インド人、フィリピン人、パキスタン人という人員構成になっており、風土・文化・商習慣が異なる環境で、日々の業務に取り組んでいます。

私は今年4月に赴任し、各国政府系の電力・石油会社向けに住友電工グループ製品全般の営業支援活動をおこなっています。特に注力している電力事業関連製品は、規模が大きく、1つのプロジェクトを完遂させるためには、多くの関係者の協力が不可欠であり、また、数年を要することも少なくありません。

最近では、日本製造品のみならず、インド、サウジアラビアなどの海外グループ会社の製品の拡販にも力を入れており、住友電工グループ

にとっての中東市場の位置付けは、より重要なものになっています。今後も、住友電工グループの発展および中東の社会インフラシステムの充実に貢献していきたいと考えています。



中東事務所のスタッフ

現地スタッフの紹介



Girish (ギリッシュ)

私は、技術マネージャーのGirishです。41歳、2児の父親です。2010年10月10日に入社して以降、FTTx製品、融着機などの光関連製品を担当し、技術支援・アフターサービスに中東全域を飛び回っています。UAE、サウジアラビア、カタールで特に成果を挙げてきており、日本のみなさんの素晴らしいサポートに感謝しています。住友電工での仕事は、日本および中東の文化を広く学ぶ機会があり、日々楽しく業務に取り組んでいます。



Lanie (ラニー)

2009年に入社したフィリピン出身のLanieです。私は当事務所で最初に採用されたスタッフです。住友電工に入社し働くことは、私の運命だと思っています。所内の事務業務を担当し、事務所員の活動をサポートしてきました。今年に入り、業務範囲を広げ、融着機のアフターサービス活動にも参加しています。このような成長の機会を与えてくれる住友電工で仕事ができることを誇りに思っています。

現地レビュー

砂漠の中の都市ドバイ

砂漠・ドバイ

ドバイは、アラビア半島のペルシア湾*に面したアラブ首長国連邦(UAE)を構成する7首長国のうちの1つ。砂漠かつ海沿いという土地柄、高温かつ高湿度の気候が最大の特徴。真夏の気温は50度にもなります。

*UAEでは、アラビア湾と呼ばれています。



UAEの砂漠



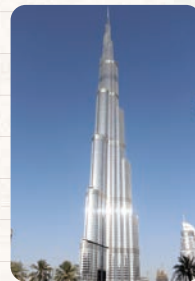
イスラム教の象徴 モスク

アラブ社会・ドバイ

地元のアラブ人を中心としたイスラム教徒には、毎日5回の礼拝実施の義務があります。また、毎年、毎年のラマダン(断食月)には日の出から日没までのあいだ、飲食を絶つ義務があります。この間は、ほぼすべての飲食店が閉まってしまいます。また、酒・豚肉はイスラムの戒律で基本的に禁止されており、許可を得た店・ホテルでのみ入手が可能です。この地での生活では、アラブ・イスラムの世界とうまく付き合うことが求められます。

世界都市・ドバイ

数十年前までは砂漠に過ぎなかったこの地は、あっという間に世界有数の都市へと変貌を遂げています。その象徴として、世界一の高さ828mを誇るビル、ブルジュ・ハリファが2010年に開業し、超高層ビル街の中心にそびえ立っています。



ブルジュ・ハリファ(高さ828m)



ドバイメトロ

ドバイの乗り物

中東初の都市鉄道として、2009年に無人運転のドバイメトロが開業しています。日本企業連合が建設し、当社はインドネシア子会社SIK*のケーブルを納入しました。2013年には安倍首相が視察・試乗をおこなっています。2020年のドバイ万博に向けて、3路線目が計画中です。

一方、人々の足は車が中心であり、日欧米からの輸入車がたくさん街を走っています。フェラーリやランボルギーニといった高級車を複数台乗り回す富裕層も存在します。

*SIK: PT. Sumi Indo Kabel Tbk. 産業用電線・ケーブルの製造・販売会社



市内のビル群

住友電気工業株式会社

<http://www.sei.co.jp/>(バックナンバーも掲載しています)

住友電工グループニュースレター 第459号 2015年12月発行 編集発行人/野田太郎

